

研究職員(テニユア型任期付)公募一覧表(令和8年10月)

公募番号	試験研究機関名	配属研究領域	待遇	任期	研究課題名	研究内容	応募条件
T1	森林総合研究所	森林管理研究領域	研究職員 国立研究開発法人森林研究・整備 機構職員給与規程に基づき決定	テニユア型任期付 (3年)	時系列リモートセンシングによる持続的 森林管理手法の開発	航空レーザ計測とUAVレーザ等を融合した時系列リ モートセンシング手法により、時間的に変化する森林 情報をAIなど利用して効率的かつ高精度に計測する 手法を開発し、時系列森林情報に基づく新たな持続的 森林管理手法を開発する。	① 採用時に修士の学位以上を有するもの ② 森林計測に深い知識を有し、航空レーザ計測、地上レー ザ測量、またはUAV写真等について、プログラム開発および AI等による解析の経験と研究実績を有するもの ③ 勤務地: 本所(つくば市) ④ 採用された場合、全国規模の転勤が可能なもの
T2	森林総合研究所	林業経営・政策研究領域	研究職員 国立研究開発法人森林研究・整備 機構職員給与規程に基づき決定	テニユア型任期付 (3年)	林道、山道管理に関する人文社会科学 的調査研究	林道、山道等の地域インフラの適切な管理には、工学的 的手法に加え、地域社会の構造把握や関連法制度の 整備といった人文社会科学的手法が重要である。課 題の解決に向け、日本の山間地域における道管理に 関わる地域社会経済構造、法制度等の人文社会科学 的調査、分析を行う。	①採用時に修士の学位以上を有する者。 ②日本の山間地域における道管理に関わる地域社会経済 構造、法制度等の人文社会科学的研究実績を有する者。 ③勤務地: 本所(つくば市) ④採用された場合、全国規模の転勤が可能な者。 ⑤日本語で円滑なコミュニケーションが取れる者。
T3	森林総合研究所	森林昆虫研究領域	研究職員 国立研究開発法人森林研究・整備 機構職員給与規程に基づき決定	テニユア型任期付 (3年)	森林における昆虫の多様性機能の解明	森林の積極的な多様性管理策が必要とされており、多 様性機能に関する課題推進のために、森林における 生物多様性機能を、特に害虫や天敵との関連につい て解明し、森林・林業・木材産業にかかわる生物多様 性機能の維持・増進を導く森林・木材生産管理手法を 開発する。	①採用時に修士以上の学位を有する者。 ②森林科学、昆虫学および群集生態学に深い見識を有し、 他分野の研究者と連携して生物多様性とその機能の研究に 熱意をもって主体的に取り組む意思のある者。 ③勤務地: 本所(つくば市) ④採用された場合、全国規模の転勤が可能な者。 ⑤日本語で円滑なコミュニケーションが取れる者。

研究職員(テニユア型任期付)公募一覧表(令和8年10月)

公募番号	試験研究機関名	配属研究領域	待遇	任期	研究課題名	研究内容	応募条件
T4	森林総合研究所	生物多様性・気候変動研究拠点	研究職員 国立研究開発法人森林研究・整備機構職員給与規程に基づき決定	テニユア型任期付 (3年)	気候変動下での森林生態系の生物多様性保全と評価に関する研究	気候変動対策や生物多様性保全・回復の取り組みにおいて、その相互作用に着目し、課題を一体的に捉える必要がある。そのため、森林生態系を対象に、気候変動影響を考慮可能な広域スケールや長期の野外調査データをもちいた生物多様性評価に関する研究を行う。	①採用時に修士の学位以上を有する者 ②気候変動分野との関連など分野横断的な視点から、森林を対象とした生物多様性の保全や評価に関する研究を意欲的に推進できる者 ③勤務地:本所(つくば市) ④採用された場合、全国規模の転勤が可能な者
T5	森林総合研究所	東北支所	研究職員 国立研究開発法人森林研究・整備機構職員給与規程に基づき決定	テニユア型任期付 (3年)	東北地方の広葉樹資源の持続的な利活用を促進する森林施業技術の開発	東北地方における広葉樹資源の持続的な利活用を進めるため、東北支所の有する数多くの長期試験地のデータ等を活用して広葉樹の種特性を解明し、生物多様性保全と付加価値の高い広葉樹材の生産を両立させる広葉樹林や針広混交林の施業技術を開発する。	①採用時に修士の学位以上を有する者 ②樹木、とくに広葉樹を対象とした生態学または造林学の専門知識と研究実績を有する者。他の研究者、関係者と連携し、生物多様性の保全や森林資源の持続的な利活用に関する研究を意欲的に推進できる者。 ③勤務地:東北支所(岩手県盛岡市) ④採用された場合、全国規模の転勤が可能な者 ⑤日本語で円滑なコミュニケーションが取れる者
T6	森林総合研究所	林木育種センター	研究職員 国立研究開発法人森林研究・整備機構職員給与規程に基づき決定	テニユア型任期付 (3年)	画像解析等を活用したハイスループット表現型評価技術の開発による育種評価手法の高度化	林木育種事業への活用を目的に、画像解析等を活用したハイスループットな表現型評価技術の開発に取り組む。大規模データの解析基盤を構築し、森林樹木の生理・生態的特性の解明を推進する。育種形質の効率的な定量化・モデル化手法を確立し、育種評価手法の高度化を行う。	①採用時に修士の学位以上を有する者 ②画像解析や統計解析をはじめとするデータ解析の経験を有し、データベースの構築や大規模データ処理に携わった実績を持つ者が望ましい。さらに、フィールド調査に基づき樹木の形質評価(表現型データの取得)や、その解析に取り組んだ実績を有する者が望ましい。 ③勤務地:林木育種センター(茨城県日立市) ④採用された場合、全国規模の転勤が可能な者 ⑤日本語で円滑なコミュニケーションが取れる者(日本語能力試験N2以上)